

VIII 特別勘定に関する指標等

1 特別勘定資産残高の状況

(単位：百万円)

区 分	2015年度末	2016年度末
	金 額	金 額
個人変額保険	246,134	300,693
個人変額年金保険	613,054	559,545
団体年金保険	—	—
特別勘定計	859,189	860,239

(注) 個人変額年金保険の特別勘定資産残高には、株価指数連動追加年金付予定利率市場連動型年金保険の追加年金部分の特別勘定資産が含まれています。

2 個人変額保険及び個人変額年金保険特別勘定資産の運用の経過

-1 運用環境

【日本株式市場】

日本株式市場は上昇しました。年度末の東証株価指数（TOPIX）は前年度末比+12.28%の1,512.60ポイント（前年度末1,347.20ポイント）となりました。年度の前半は、6月末に英国の国民投票でEU（欧州連合）離脱派が勝利したことを受けて急落する局面があり、一時1,200ポイントを下回りました。年度の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて急落する局面がありましたが、米新政権の政策への期待などから市場は上昇し、1,500ポイントを超えました。1月に米新政権が発足すると、政策運営への不透明感と期待とが錯そうし、その後はもみ合う展開となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が上昇（価格は下落）し、年度末には0.065%（前年度末△0.050%）となりました。年度の前半は、4月から6月にかけて日銀の追加金融緩和期待への高まりなどを背景に、金利は低下基調で推移しました。6月末の英国の国民投票の結果などを受けて金利は更に低下し、△0.300%となる場面がありました。その後、7月から8月にかけて、財務相が40年国債増発の検討を表明したことなどから金利は上昇に転じ、9月には日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を発表したことなどを受けて、0%近辺で推移しました。年度の後半は、米新政権の政策への期待などから米国金利が上昇したことに連れて国内金利も上昇しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は上昇しました。年度末のNYダウ工業株30種は前年度末比+16.84%の20,663.22ドル（前年度末17,685.09ドル）となりました。年度の前半は、6月末に英国の国民投票の結果などを受けて急落する局面があり、一時17,000ドル近辺まで下落しましたが、買戻しの動きと堅調な経済指標から上昇に転じました。年度の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権の政策への期待などから市場は大幅に上昇しました。その後、米新政権の政策運営への不透明感から軟調に推移する場面もありましたが、3月には21,169.11ドルを付け、期を通じては上昇して終わりました。欧州株式市場は上昇しました。市場別の年間の騰落率は、独DAX指数+23.55%、英FTSE100指数+18.59%、仏CAC40指数+16.82%となりました。6月末の英国の国民投票の結果などを受けて急落する局面がありましたが、年度の後半には、米国株式市場に連れて上昇しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、10年国債の金利が上昇（価格は下落）し、年度末には2.387%（前期末1.769%）となりました。年度の前半は、6月末に、英国の国民投票の結果などを受けて金利は急低下する局面があり、一時1.3%近辺まで低下しました。年度の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権の政策への期待、インフレ率上昇の観測、さらには、FOMC（連邦公開市場委員会）で1年ぶりの利上げが決まったことなどを背景に金利は上昇しました。その後は、金利上昇への期待と、新政権の政策運営への不透明感から揉み合いました。年度中に、FRB（米連邦準備制度理事会）による、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標引き上げが2回行われ、計0.500%引き上げの年0.750~1.000%となりました。欧州債券市場は、独10年国債の金利が上昇（価格は下落）し、年度末には0.328%（前年度末0.153%）となりました。年度の前半は、EUが域内の景気・物価見通しを下方修正したこと、英国の国民投票の結果などから金利は低下し、△0.2%を下回りました。年度の後半は、米新政権の政策への期待、インフレ率上昇の観測などを背景に金利は上昇し、0.5%超となることもありました。ECB（欧州中央銀行）の政策金利は据え置かれ、年0.000%となっています。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、円高米ドル安となり、年度末には112.19円（前年度末112.68円）となりました。年度の前半は、米国の早期利上げ観測の後退、英国の国民投票の結果などを受けて円高で推移し、100円近辺の水準となることがありました。期の

後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、米新政権への期待からドルが買われました。その後も、12月には堅調な米景気指標や、FOMCで1年ぶりの利上げが決まったことなどを背景に円安が進行し、118.18円を付けました。年度末に向けて米国の金利上昇への期待と米新政権の政策運営への不透明感から揉み合い、円高米ドル安で推移しました。ユーロ/円相場は、円高ユーロ安となり、期末には119.79円（前期末127.70円）となりました。期の前半は、英国の国民投票の結果などを受けて円高に推移し、一時111.22円となりました。期の後半は、11月初旬に米大統領選挙でトランプ氏が勝利したことを受けて、円、ユーロとも対ドルで下落しましたが、円の下落幅がユーロよりも大きかったことなどから、対ユーロで円安基調となりました。期末に向けて欧州における反EUの政治リスクへの懸念と欧州の金利上昇との間で揉み合いましたが、期を通じては円高ユーロ安となりました。

2 -2 運用内容

変額保険・変額年金保険の運用は投資対象資産毎に設けた特別勘定において、主として投資信託への投資を通じて行っております。当期（2016年4月～2017年3月末）を通じて、各特別勘定ともに投資対象となる投資信託の組入比率を概ね高位に維持しました。

3 個人変額保険及び個人変額年金保険の状況

-1 個人変額保険

① 保有契約高

(単位：件、百万円)

区 分	2015年度末		2016年度末	
	件 数	金 額	件 数	金 額
変額保険(有期型)	196,993	2,450,237	263,610	2,992,453
変額保険(終身型)	119,761	770,235	135,574	844,333
合 計	316,754	3,220,473	399,184	3,836,787

② 年度末個人変額保険特別勘定資産の内訳

(単位：百万円、%)

区 分	2015年度末		2016年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・コールローン	10,335	4.2	11,831	4.0
有価証券	228,202	92.7	280,889	93.4
公社債	—	—	—	—
株 式	—	—	—	—
外国証券	40,798	16.6	61,903	20.6
公社債	—	—	—	—
株式等	40,798	16.6	61,903	20.6
その他の証券	187,403	76.1	218,985	72.8
貸付金	—	—	—	—
その他	7,596	3.1	7,972	2.6
貸倒引当金	—	—	—	—
合 計	246,134	100.0	300,693	100.0

③ 個人変額保険特別勘定の運用収支状況

(単位：百万円)

区 分	2015年度	2016年度
	金 額	金 額
利息配当金等収入	13,216	1,103
有価証券売却益	1,211	1,425
有価証券償還益	0	—
有価証券評価益	—	22,169
為替差益	—	24
金融派生商品収益	—	—
その他の収益	—	—
有価証券売却損	0	333
有価証券償還損	—	—
有価証券評価損	27,884	—
為替差損	24	35
金融派生商品費用	—	—
その他の費用	23	25
収支差額	△13,503	24,328

④ 個人変額保険特別勘定に関する有価証券等の時価情報

a. 売買目的有価証券の評価損益

(単位：百万円)

区 分	2015年度末		2016年度末	
	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益
売買目的有価証券	228,202	△27,884	280,889	22,169

b. 金銭の信託の時価情報

該当ありません。

c. 個人変額保険特別勘定のデリバティブ取引の時価情報（ヘッジ会計適用・非適用分の合算値）

該当ありません。

3 -2 個人変額年金保険

①保有契約高

(単位：件、百万円)

区 分	2015年度末		2016年度末	
	件 数	金 額	件 数	金 額
個人変額年金保険	89,598	607,522	83,126	555,459

②年度末個人変額年金保険特別勘定資産の内訳

(単位：百万円、%)

区 分	2015年度末		2016年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・コールローン	5,538	0.9	4,845	0.9
有価証券	603,304	98.4	552,441	98.7
公社債	—	—	—	—
株 式	—	—	—	—
外国証券	48,728	7.9	44,454	8.0
公社債	—	—	—	—
株式等	48,728	7.9	44,454	8.0
その他の証券	554,575	90.4	507,986	90.8
貸付金	—	—	—	—
その他	4,211	0.7	2,258	0.4
貸倒引当金	—	—	—	—
合 計	613,054	100.0	559,545	100.0

(注) 特別勘定資産には、株価連動追加年金付予定利率市場連動型年金保険の追加年金部分の特別勘定資産が含まれています。

④個人変額年金保険特別勘定に関する有価証券等の時価情報

a. 売買目的有価証券の評価損益

(単位：百万円)

区 分	2015年度末		2016年度末	
	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益
売買目的有価証券	603,304	△37,864	552,441	9,697

(注) 本表には、金銭の信託等の売買目的有価証券を含みます。

b. 金銭の信託の時価情報

該当ありません。

c. 個人変額年金保険特別勘定のデリバティブ取引の時価情報 (ヘッジ会計適用・非適用分の合算値)

イ 差損益の内訳 (ヘッジ会計適用分・非適用分の内訳)

(単位：百万円)

	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合 計
ヘッジ会計適用分	—	—	—	—	—	—
ヘッジ会計非適用分	—	—	76	—	—	76
合 計	—	—	76	—	—	76

(注) ヘッジ会計非適用分の差損益は、損益計算書に計上されています。

ロ 金利関連

該当ありません。

ハ 通貨関連

該当ありません。

③個人変額年金保険特別勘定の運用収支状況

(単位：百万円)

区 分	2015年度	2016年度
	金 額	金 額
利息配当金等収入	23,003	7,543
有価証券売却益	3,501	2,490
有価証券償還益	—	—
有価証券評価益	—	9,697
為替差益	—	70
金融派生商品収益	—	5
その他の収益	—	—
有価証券売却損	5	672
有価証券償還損	—	—
有価証券評価損	37,864	—
為替差損	—	59
金融派生商品費用	238	—
その他の費用	2	0
収支差額	△11,605	19,075

(注) 運用収支には、株価指数連動追加年金付予定利率市場連動型年金保険の追加年金部分の運用収支が含まれています。

3-2

ニ 株式関連

(単位：百万円)

区分	種類	2015年度末				2016年度末			
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価	差損益
			うち1年超				うち1年超		
店頭	オプション 買建 コール	17,349 (1,737)	4,823	2,249	512	4,298 (420)	618	497	76
合計					512				76

(注) () 内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。

ホ 債券関連

該当ありません。

ヘ その他

該当ありません。

Ⅸ 信託業務に関する指標

該当ありません。

VII

IX